



サプライチェーン排出削減に 向けた環境省の取組

平成30年3月19日

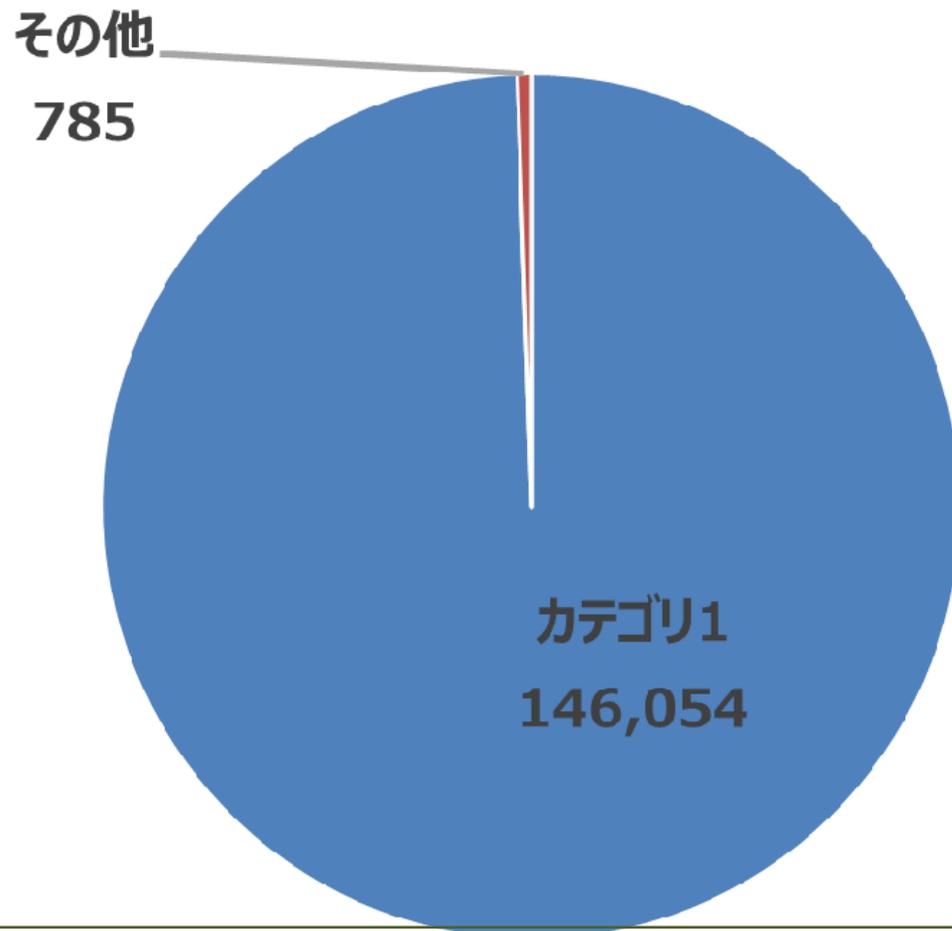
環境省地球環境局地球温暖化対策課 課長
松澤 裕

環境省のサプライ チェーン排出量算定

環境省本省におけるScope3排出量内訳

Scope3カテゴリ内訳をみると、カテゴリ1「購入した製品・サービス」がほとんど全ての占める。

環境省本省Scope3排出量内訳[t-CO2]

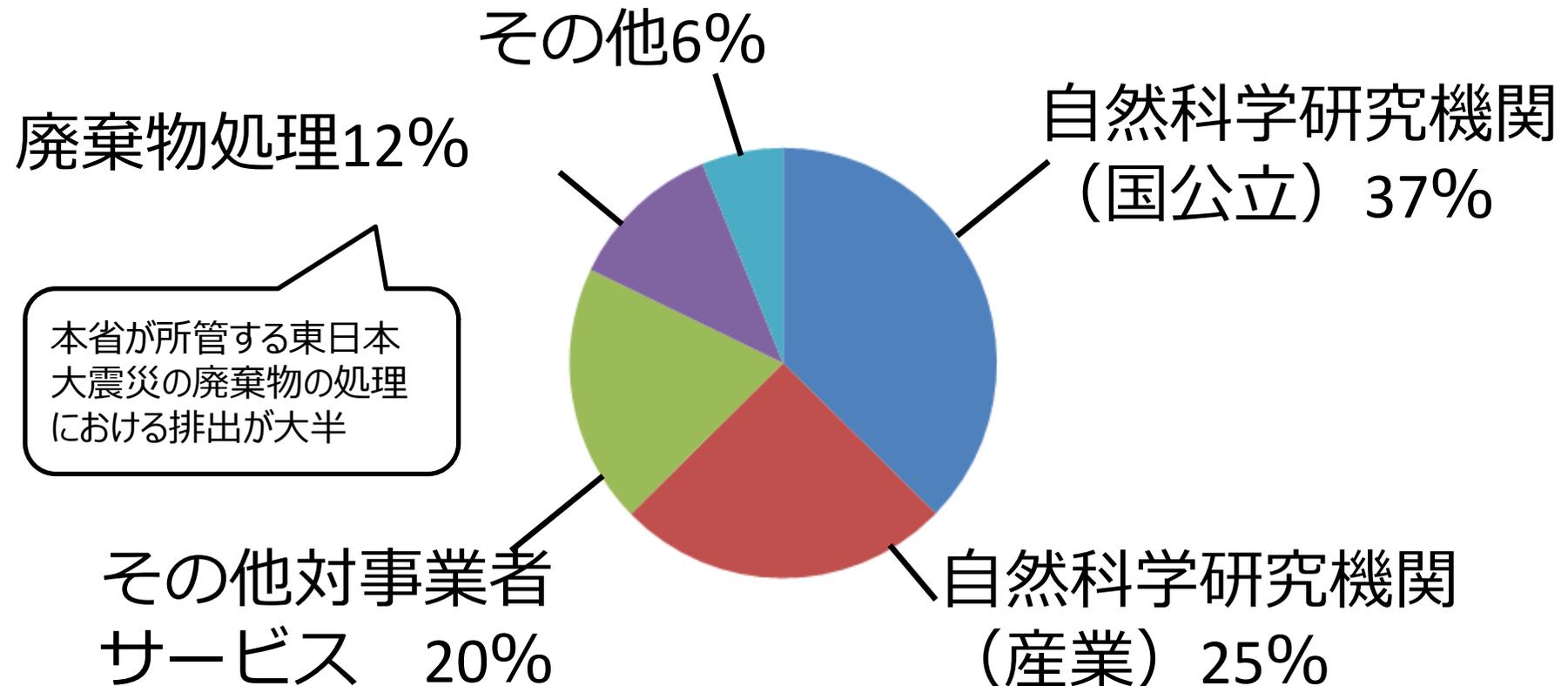


Scope3 カテゴリ	排出量 [t-CO2]
<u>カテゴリ1</u>	<u>146,054</u>
カテゴリ2	14
カテゴリ3	114
カテゴリ5	22
カテゴリ6	366
カテゴリ7	269
カテゴリ1以外 (その他)	785

カテゴリ1の排出量の内訳

自然科学研究機関（国公立/産業）（研究・実証委託、観測衛星開発等）、その他の対事業所サービス（調査委託、環境モニタリング等）が全体の8割程度になる。

※産業連関表ベースの排出原単位の適用部門別排出量



排出量の上位項目

■ 自然科学研究機関（国公立）（排出原単位数値：3.71 t-CO₂/百万円）

順位	事業名称	排出量 (t-CO ₂)	環境省本省のカテゴリ1排出量に占める割合
1	平成27年度～平成29年度温室効果ガス観測技術衛星Ⅱ型の開発委託業務	31,020	21%
2	平成27年度未来のあるべき社会・ライフスタイルを創造する技術イノベーション事業（高品質GaN基盤を用いた超高効率GaNパワー・光デバイスの技術開発とその実証）委託業務	5,566	3.8%
3	平成27年度CO ₂ 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業（浮体式洋上風力発電施設における係留コストの低減に関する開発・実証）委託業務	1,160	0.79%

排出量の上位項目

■ 自然科学研究機関（産業）（排出原単位数値：5.50 t-CO₂/百万円）

順位	事業名称	排出量 (t-CO ₂)	環境省本省のカ テゴリ1排出量に 占める割合
1	平成27年度浮体式洋上風力発電実証事業委託業務	10,398	7.1%
2	平成27年度潮流発電技術実用化推進事業（国内の海洋エネルギー利用拡大に向けた1 MW級潮流発電システムの開発・実証事業）委託業務	2,603	1.8%
3	平成27年度CO ₂ 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 （集光型太陽熱発電（CSP）システムに関する技術開発）委託業務	1,976	1.4%

排出量の上位項目

■ その他の対事業所サービス（排出原単位数値：0.69 t-CO₂/百万円）

順位	事業名称	排出量 (t-CO ₂)	環境省本省のカテゴリ1排出量に占める割合
1	平成27年度指定廃棄物等処理支援業務	1,037	0.71%
2	平成27年度放射性物質を含む下水汚泥減容化施設解体調査委託業務	915	0.63%
3	平成27年度二酸化炭素貯留適地調査事業（経済産業省連携）	902	0.62%

サプライチェーン排出量算定から見えてきた課題

- 削減の取組みを反映するためには、現在の算定では課題がある。大半を占める調達の実排出量を算定する際には、調達金額と産業連関表ベースの原単位を用いて算定している。
- そのため、調達金額の高低で排出量が上下する。削減の取組を実施したとしても、調達金額が低下しない限り排出削減が達成しない算定方法である。
- 今後、調達先に削減対策を働きかけ、調達先が対策を実施して削減に成功したとしても、その効果はカテゴリ1の削減に反映することが難しい。

米国連邦調達局の 取組

4. 米国の調達におけるサプライチェーンの取り組み

■ 制度的背景

- ✓ 2015年の大統領令（13693）によって、連邦政府が2008年比で2025年までに40%Scope 1・2・3 排出量を削減することが決められている。
- ✓ 具体的な施策として省エネルギー製品の調達、輸送の効率化、再生可能エネルギーの利用推進、サプライチェーンマネジメント等が定められている。

4. 米国の調達におけるサプライチェーンの取り組み

■ GSAによるサプライヤーへの取組要請

① CDPを通じた情報開示や排出削減への協力を契約で規定

② 契約企業のCDPへの回答を踏まえて、物品調達やサービス契約以降に、企業に、削減目標や再エネ導入目標の設定や、同じセクターの優良企業と同じくらいのエネルギー効率を実現するための取り組みを依頼している。

米国の調達におけるサプライチェーンの取り組み

■ GSAのScope 3 排出量

- ✓ GSAでは、調達した物品・サービスの製造由来の排出量は、2012年に一度算定して以来その後は算定していない。
- ✓ Scope3のその他のカテゴリとして、廃棄物、通勤、出張、リース、エネルギー関連の排出量については毎年算定しており、出張の抑制の取り組み等が排出量の削減として反映されている。

環境省による目標設定
や排出量算定の支援

環境省による目標設定や排出量算定の支援

- 環境省は、企業版2度目標（SBT）の設定、サプライチェーン排出量の算定に対し、情報提供・助言・作業支援。
- SBT設定支援には63社が参加うち、42社と個別面談を実施。
- 平成30年度も継続実施方針

環境省 企業版2℃目標（SBT）策定支援事業

参加企業63社一覧 製造業

化学：花王、積水化学工業、日産化学工業、日東電工、
日本ゼオン、ファンケル、富士フイルムホールディングス、三菱ガス化学

食料品：味の素、コカ・コーラ ボトラーズジャパン、ニチレイ

医薬品：アステラス製薬、大塚製薬（大塚HD）、塩野義製薬

機械：グローリー、ジェイテクト、ダイキン工業、ダイフク、日立建機

ガラス・土石製品：旭硝子

非鉄金属：フジクラ、古河電気工業、YKK

電気機器：ウシオ電機、オムロン、京セラ、シスメックス、東芝、
日本電気、三菱電機、明電舎

輸送用機器：スズキ、テイ・エス テック、豊田合成、豊田自動織機、
マツダ、三菱自動車工業

印刷：サンメッセ、大日本印刷、凸版印刷

ゴム製品：住友ゴム工業、横浜ゴム

その他製品：コクヨ、アシックス

環境省 企業版2℃目標（SBT）策定支援事業

参加企業63社一覧 **非製造業**

建設業：大林組、鹿島建設、住友林業、積水ハウス、大成建設、大東建託、大和ハウス工業

陸運業：日本通運

海運業：日本郵船

情報・通信：NTTドコモ、野村総合研究所

小売業：丸井グループ、アスクル

保険業：MS&ADインシュアランスグループホールディングス、SOMPOホールディングス

その他金融業：日立キャピタル

不動産業：東急不動産ホールディングス

サービス業：セコム、ベネッセコーポレーション

サプライチェーン排出量算定支援 参加企業（28社）

- 化学：日産化学工業、日東電工、日本ゼオン、ファンケル、三菱ガス化学
- 食料品：コカ・コーラ ボトラーズジャパン
- 機械：ダイキン工業、日立建機
- ガラス・土石製品：旭硝子
- 電気機器：カシオ計算機、京セラ、シスメックス、フォスター電機、横河電機
- 精密機器：タムロン
- 輸送用機器：テイ・エス テック、豊田合成、豊田自動織機、トヨタ車体、マツダ
- 印刷：サンメッセ、凸版印刷
- ゴム製品：住友ゴム工業
- 陸運業：日本通運、日立物流
- 卸売業：キヤノンマーケティングジャパン
- 保険業：MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス
- その他金融：日立キャピタル

環境省 企業版2度目標設定支援事業 現時点での実施状況

- 削減目標の計算については、一部のセクターを除き手法が確立されているため、おおむね問題なし。
- 企業によっては、
 - 気候変動が、どのように経営上のリスク・機会になるのか、その関連性の分析をすること
 - 実現できそうなものという手ごたえをもつことに苦勞している状況。
(これらが、経営層の理解を得るポイント)

環境省 企業版2℃目標（SBT）策定支援事業

個別面談実施企業42社の進捗状況

- ・SBT認定を取得：1社
- ・コミット※1済：18社
- ・SBT認定申請中（※2）：6社

※1：SBT事務局に対してSBTを策定する旨を宣言すること

※2：SBT認定申請中の企業は全てコミット済であり、上記の18社は、この6社を含む

平成30年2月13日時点)

參考資料

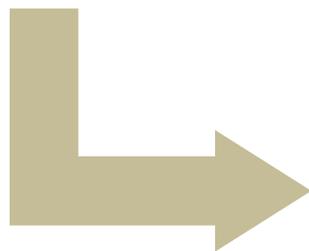
グリーン・バリューチェーンプラットフォーム

⇒ サプライチェーン排出量に関する環境省情報プラットフォーム

- 国内外の動向
- 算定方法等に関するトピック
- スコープ3 算定方法・事例等
などを紹介

環境省 GVC

検索



グリーン・バリューチェーンプラットフォーム
サプライチェーン排出量に関する情報プラットフォーム

サイトマップ 日本語
English

環境省 Ministry of the Environment 経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry

サプライチェーン排出量とは 算定ツール 取組事例 国内動向 国際動向 お問い合わせ

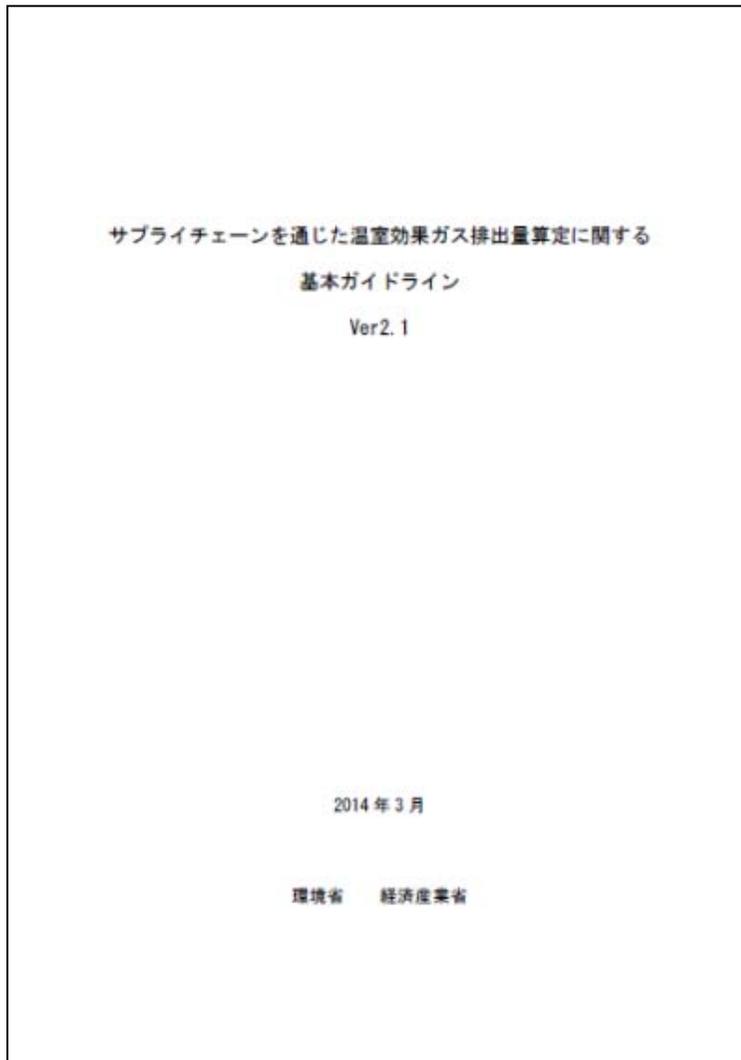
[環境省ホーム](#) > [政策分野・行政活動](#) > [政策分野一覧](#) > [地球環境・国際環境協力](#) > [地球温暖化対策](#) > [温室効果ガス排出量](#) > グリーン・バリューチェーンプラットフォーム

グリーン・バリューチェーンプラットフォーム

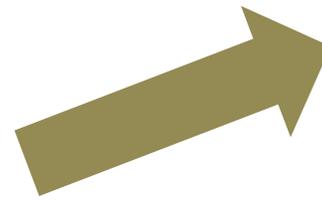
サプライチェーン排出量に関する情報プラットフォーム

当HPは、サプライチェーン排出量に関する環境省情報プラットフォームとして、国内外の動向、算定方法等に関するトピックを掲載しております。
サプライチェーン排出量とは、スコープ1, 2, 3 排出量の総量であり、当HPでは、特にスコープ3の算定方法、事例等の紹介を行っております。

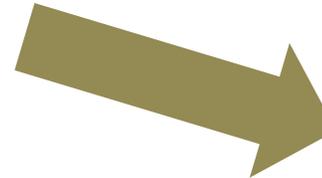
 サプライチェーン 排出量とは	 算定ツール	 取組事例
 国内動向	 国際動向	 お問い合わせ



要点を知りたい



パンフレット



算定の手順を知りたい



参考書
主人公Aさんとともに算定ポイントを体験しながら学べる。

基本ガイドライン (Ver.2.2)
算定の基本的な考え方と算定方法を紹介